

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人鈴木熊七の上告趣意について。

所論は、要するに、原審の専権に属する証拠の取捨、判断、並びに事実の認定を非難するものに帰着するのであつて、上告の適法な理由とすることはできない。

よつて、刑訴施行法二条、旧刑訴四四六条に従い主文のとおり判決する。

右は全裁判官一致の意見である。

検察官田中巳代治関与

昭和二五年十一月一〇日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	霜	山	精	一
裁判官	栗	山		茂
裁判官	小	谷	勝	重
裁判官	藤	田	八	郎